

With

東北大学病院
地域医療連携センター通信

第5号
2007.8

CONTENTS

- 1・2… 東北6大学がん医療均てん化推進に関する意見交換会を開催
- 2… コーヒーブレイク
- 3… 糖尿病代謝科
- 4… 循環器内科生涯教育講座のご案内
レーザー屈折矯正手術説明会のご案内
新患日等の変更について
もの忘れ外来完全予約制のお知らせ
- 5… 専門看護師のご紹介
平成19年度第1回ワークショップ開催
日本フィルがやってきた
- 6… <高度先進医療の紹介>
悪性黒色腫に対する
センチネルリンパ節生検
宮城県救急医療研究会
第9回学術集会のご案内
- 7… 救急看護認定看護師紹介
地域医療連携センター講演会開催のご案内
国立大学医療連携・退院支援関連部門
連絡協議会に参加
- 8… 新患日一覧
お問い合わせ先一覧
看護衣リニューアル
編集後記



人にやさしく未来をみつめる

東北大学病院

〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1番1号
TEL 022(717)7000(代)

地域医療連携センター

TEL 022(717)7131(直通)
FAX 022(717)7132

★ SPECIAL

東北6大学がん医療均てん化推進に関する意見交換会 及び東北がん医療均てん化推進講演会開催

昨年8月、本院は厚生労働省から「がん診療連携拠点病院」の指定を受け、10月に運営組織としてがんセンターを設置したことは、既に御承知のことと思います。
このたび、東北地区における病院関係者との連携を密

にし、がん医療均てん化を推進し、あわせて地域のがん医療の質の向上に寄与することを目的として、4月16日(月)午後3時30分から、勝山館2階瑞雲の間において東北6大学がん医療均てん化推進に関する意見交換会及び東北がん医療均てん化推進講演会を開催しました。



●東北6大学がん医療均てん化推進に関する意見交換会

意見交換会には、学外からは東北5大学病院から阿部教授、小澤医事課長(以上2名、弘前大学医学部附属病院)、廣川腫瘍センター長、佐藤医事課長(以上2名、秋田大学医学部附属病院)、石田血液内科教授、若林外科教授、岸浪医務課長(以上3名、岩手医科大学附属病院)、深尾教授、北中教授、根本教授、松下事務部長、齋藤室長(以上5名、山形大学医学部附属病院)、寺島臨床腫瘍センター部長、戸野主査(以上2名、福島県立医科大学附属病院)の14名、本院から里見病院長、山田がんセンター長、石岡副がんセンター長の3名が出席しました。また、久道会長(財団法人宮城県対がん協会)、三浦医学教育課長(文部科学省高等教育局)が陪席し、計19名が出席して行われました。

★ SPECIAL

東北6大学がん医療均てん化推進に関する意見交換会 及び東北がん医療均てん化推進講演会開催

はじめに、「意見交換会に関する申合せ」について審議し、今後、本院を含めた6大学持ち回りで年2回程度開催することに決まりました。

続いて「がんプロフェッショナル養成プラン」について、意見交換を行いました。

最後に、山形大学から「東北がん診療連携ネットワーク(仮称)の設立」について提案があり、次回検討することとなりました。

今回の意見交換会を通して、今後の各病院の連携強化に向けて有益な指針が示されたものと思われま

す。意見交換会に引き続き本院主催、宮城県立がんセンター共催、宮城県がん診療連携拠点病院協議会後援による「東北がん医療均てん化推進講演会」が行われました。講師に垣添国立がんセンター名誉総長及び三浦文部科学省医学教育課長をお迎えし、それぞれから「東北地方におけるがん医療の均てん化」、「がん医療の専門家の養成と大学改革」について講演いただきました。対象者として、学外からは東北地方のがん診療連携拠点病院及び宮城県、学内からは腫瘍評議会構成員及びがん会議構成員の計約100名が出席しました。

講演会終了後の懇親会では情報交換が行われ、盛会のうちに会を終了することができました。(総務課総務係)



東北がん医療均てん化推進講演会での垣添国立がんセンター名誉総長の講演



東北6大学がん医療均てん化推進に関する意見交換会



東北がん医療均てん化推進講演会での三浦高等教育局医学教育課長の講演



懇親会場の様子

～高度救命救急センターのリアルな毎日をお届けします～ ＊コーヒープレイク その4

●高度救命救急センターの使命

東北大学病院は高度救命救急センターという指定を頂いています。普通の救命センターと高度救命救急センターで違いは何かといえますと、高度救命救急センターは広範囲熱傷、中毒、四肢の切断に対する再接着を24時間行えることが要件となっております。広範囲熱傷患者さんの処置には時間も人員も要するため、一般の病院で通常の診療を行いながらの管理では限界があります。高度救命救急センター開設後、頻りに県内の救命センターや中核の病院から熱傷患者の診療依頼を頂いています。とはいえ、大学病院の救命センターでも何人もの広範囲熱傷患者を診ることは困難で、現状ではせいぜい3名が精一杯です。そこで、満床時に依頼があると、どなたかに転院していただかないと依頼を受けられないということが生じてまっています。先日、県の中核の病院から肝硬変、肺気腫などの合併症を持つ高齢者の熱傷患者の診療依頼がありました。そこで、2回の手術が終了しており、術後落ち着いたら転院元への転院予定であった患者さんのご家族に、予定より早めに転院していただくようお願いしました。事情を御説明しましたが、ご家族は大学での継続加療を希望され、結局追い出されるという印象をうけられたようで、双方にとって不幸な結果になりました。当院としては、やはり重症

の急性期をみるのが使命ですので、受け入れ時に説明して納得していただいた上での受け入れ、普段の十分なコミュニケーションが大切であると痛感しました。

●偶然に感謝

先日、仙台駅で倒れていた20代の男性が救命センターに搬送されてきました。特に既往症のない男性で、急に倒れ、痙攣しているところを通行人に発見され救急車が要請されました。救急隊到着時、心室細動で2回の除細動により、心拍再開しました。また、そこに偶然学会で仙台にいらしていた先生が通りがかり、救急隊がもっていた挿管チューブで気管挿管を行い、救急車に乗って当院まで搬送していただきました。来院時は、バイタルサインは落ち着いていましたが、意識レベルは深昏睡でした。そこで、冷却した輸液と冷水での胃洗浄を行い素早く脳底体温療法を導入しました。34℃24時間の低体温を行った後、徐々に復温し、来院3日目に鎮静薬を停止したところ、意識が清明となり抜管できました。痙攣などの後遺症も全くなき、ご本人、ご両親ともに大変喜んで、感謝していただきました。その後、心室細動の原因検索、治療目的に無事循環器内科に転科となりました。



糖尿病代謝科のご紹介

准教授 檜尾 好徳

最近いろいろなメディアで取り上げられているメタボリックシンドローム。これは、心筋梗塞など動脈硬化性の疾患を引き起こす土壌である糖尿病、肥満、高脂血症、高血圧症を組み合わせた症候群で、現代の日本人の生活習慣に対する警鐘の役割を担っています。当科ではまさにこの糖尿病、肥満、高脂血症、動脈硬化症などの生活習慣病を主に診療対象としています。

欧米化したライフスタイルによってわが国では生活習慣病が増えています。なかでも急増しているのが糖尿病です。最近の糖尿病患者数は約740万人、糖尿病予備軍も合計すると約1,620万人となり、成人の約6人に1人は糖尿病患者あるいは予備軍であるとされます。また高血糖が長期間続くことによる糖尿病慢性合併症によって網膜症に由来する失明は年間3,000人以上、腎症由来の腎不全のために血液透析を始める患者さんは毎年新たに約13,000人を越えています。神経障害や足壊疽などの合併症で苦しめる患者さんも増加しています。この状態に高脂血症や肥満、高血圧などの危険因子が累積すると、上記の通り冠動脈疾患が進行し、心筋梗塞などが発症する確率が高くなると言われています。

当科では、このような糖尿病をはじめとする生活習慣病の早期発見、早期治療、適切な血糖コントロールによる合併症の予防や進展防止を目指しております。生活習慣病は生涯にわたる治療が必要ですので、関連病院の先生方と連携をとりながら、また合併症のある患者さんでは眼科、腎・高血圧・内分泌科、循環器内科、呼吸器関連科、神経内科、形成外科、皮膚科、リハビリテーション科など多くの関連各科と連携しながら日本でもトップレベルの治療を行っていると自負しています。

当科は、糖尿病、高脂血症、肥満、動脈硬化症など生活習慣病の診療の「拠点」として、東北地方の多くの病院からさまざまな患者さんが紹介されてきます。血糖コントロールが不良で治療に困難をきわめる症例、なかなか体重を減量できない高度肥満症例、原因不明の低血糖症例、合併症をまとめて検査したい症例など、さまざまな依頼を受け付けています。

外来では、多くの医療施設から紹介された約1,200人の患者さんを対象に、専門外来(糖尿病、高脂血症、肥満、小児糖尿病の各外来)にて診療がなされ、個々の患者さんに最高の治療を選択しています。また入院についても目的に応じていろいろなプログラム(教育入院、検査入院、治療入院、緊急入院)で対応し、それぞれの治療目標達成に努力しています。検査内容の例をあげると、神経伝導速度測定、心電図RR間隔測定、超音波検査による頸動脈壁肥厚測定、上肢・下肢血圧同時測定による動脈硬化評価、精密体脂肪計や腹部CT検査による肥満の測定の評価などが含まれます。また糖尿病療養指導士によるインスリン注射や自己血糖測定の指導、管理栄養士による食事療法の指導により、個々の患者さんにフィットした治療を選択しています。さらに糖尿病に関連する遺伝子の解析も患者さんの要望に応じています。また、勉学のために日頃病院に来

られない小、中学生や高校生のために原則的に第1日曜日に小児糖尿病外来を開いています。この日曜外来はただ診療だけではなく、仙台大学のボランティア学生さんも参加して診察待ちのレクリエーションを充実させつつあり、今年の6月に全国紙で紹介され反響を呼びました。

入院に関しても目的に応じて次のようなさまざまなプログラムで対応しています。

- 教育入院：食事・運動療法を実際に体験し、薬物療法も必要に応じて始めるための入院です。うまくつき合えば糖尿病は怖い病気ではありません。糖尿病とのつき合い方を身に付けるための入院とも言えます。2-4週間以内の入院です。
- 検査入院：糖尿病や合併症の精密検査を集中して行う1泊から1週間以内の入院です。
- 治療入院：血糖コントロール不良の場合に治療法を見直したり、合併症を治療するための入院です。
- 緊急入院：糖尿病患者さんは昏睡、重症感染症、心筋梗塞、脳卒中などのため急に入院治療が必要になることがあります。迅速に随時対応しております。

これら全ての入院患者さんの治療に関して、毎週月曜日は全体の症例検討を行い、各々の患者さんの病態をどのように考え、どのように治療すべきかを教授のもとスタッフ全員で討議し、方針を決めています。また、担当グループによる検討を毎日行っています。

さらに、院内のどの診療科でも通用するインスリンスライディングスケール標準化シールを当科で考案し、医療安全推進室を通して現在各方面で活用されています。また、この標準化に関しては、2003年にNHKで全国で紹介されています。

院外から紹介された患者さんは、上記のさまざまな治療で病状が改善した後、原則的に紹介元の医療施設に戻って治療を続けて頂きます。当科での診療が必要になれば、またいつでも診療いたします。このように紹介先の

病院や医院と密接な連携をもって診療しております。

以上の診療と同時に、文部科学省や厚生労働省などと協力して糖尿病、高脂血症、肥満や動脈硬化症の成因解明や新しい治療法の開発のための先進的研究も行っており、多くの業績を世界に向けて発信しています。また、このような最新の医療、研究を行う中で、優秀な糖尿病の専門家が育っており、多くの糖尿病専門医が診療にあたっています。

以上、糖尿病代謝科の診療のご案内をさせていただきました。当科では糖尿病、肥満、高脂血症、動脈硬化などに関するご相談を受け付けております。どうぞご連絡下さい。

- お問い合わせ先：TEL 022-717-7779(外来)
- 新患日：火曜・金曜
- 新患受付時間：8時30分～10時30分

Metabolic Syndrome



INFORMATION

循環器内科生涯教育講座のご案内

当科では平成19年4月より、毎月、「東北大学病院循環器生涯教育講座」(東北大学医師会主催)を開設しております。本公開講座の目的は、進歩の早い循環器診療の最新情報をお伝えするとともに、当科と地域の医療関係者の皆様との連携を図るためのものです。宮城県医師会・仙台市医師

会の後援も頂き、毎回日本医師会の生涯教育講座5単位が認定されます。参加ご希望の方は専用参加申し込み用紙、お電話にてお気軽に循環器内科医局までご連絡ください。

●当科のホームページでも紹介しておりますので、ぜひご覧下さい。

www.hosp.tohoku.ac.jp/sinryou/s01_jyunkanki.html

「東北大学病院循環器生涯教育講座」

- 日 時：毎月第4木曜日、午後6時45分～午後8時15分
- 場 所：9月～11月 長陵会館(仙台市青葉区広瀬町3-34)
1月～3月 東北大学医学部臨床講義棟2階 臨床大講堂
- 対 象：全ての医療関係者
- 参加料：無料(軽食付き)
- 年間スケジュール：8月・12月を除く合計10回
- 後 援：宮城県医師会、仙台市医師会(日本医師会生涯教育講座5単位を毎回認定)
- 問い合わせ先：東北大学病院 循環器内科 医局(電話022-717-7153)

<今後の予定>

- 9月27日(木) **急性冠症候群に対する治療の進歩** 安田聡准教授
- 10月25日(木) **不整脈に対する非薬物療法の進歩** 熊谷浩司講師
- 11月22日(木) **肺高血圧症の最近の治療** 福本義弘助教
- 1月24日(木) **虚血性心臓病に対する薬物療法** 伊藤健太助教
- 2月28日(木) **肺静脈血栓性肺病の診断** 縄田淳助教
- 3月27日(木) **冠動脈インターベンションの現状と展望** 高橋潤助教

●ご参加をお待ちしております。

INFORMATION

LASIK レーザー屈折矯正手術説明会のご案内

当院眼科では、今年度から屈折矯正外来を開設しました。外来棟5階に日帰り手術センターを設立して、屈折矯正手術を行っています。屈折矯正手術に興味のある患者さまや、手術を希望される患者さまを対象として、下記の通り説明会を開催致します。

いずれも午後6時より、東北大学病院眼科外来で開催致します。事前申し込みは不要ですので、ご希望の患者さまがいらっしゃいましたらご紹介頂きますようお願いいたします。



<屈折矯正手術説明会> ●8月10日(金) ●8月24日(金) ●9月14日(金) ●9月28日(金)

INFORMATION

新患日等の変更について

平成19年7月1日から下記の通り変更となりました。患者さまご紹介の際にはご注意くださいようお願い致します。

腫瘍内科

初診受付日に変更となりました。

変更前：月・火・木・金

変更後：月・火・木

眼 科

診療受付時間が変更となりました。

変更前：8時30分～10時00分

変更後：8時30分～11時30分

老年科

もの忘れ外来が**完全予約制**となりました。

※地域医療連携センターにてご予約をお取りください。

INFORMATION

もの忘れ外来完全予約制のお知らせ

平成19年7月より、老年科/漢方内科「もの忘れ外来」は完全予約制となりました。東北大学病院老年科/漢方内科では1990年に全国に先駆けてこの「物忘れ外来」を開設し、認知症医療に取り組んでまいりました。今日、認知症は、高血圧、糖尿病、高脂血症、運動不足などの生活習慣病との強い関連が示唆されています。したがって個別の臓器別医療を超えた生活習慣病に対する包括的アプローチにより認知症の発症を減らすことが急務です。当科の「もの忘れ外来」の特徴は客観的な診断根拠に基づいた正確な診断および生活習慣病や多臓器疾患への包括的治療が可能であることです。当科では問診、心理検査に加えて血液検査、頭部MRI検査、核医学を用いた脳血流検査が検査の基本です。十分な検査が終了した時点で当科医師団による症例検討会を経て診断および治療法を決定いたします。治療につきましては、塩酸ドネペジル(アリセプト)等の西洋薬のみならず、これまで当科で使用した漢方薬等も十分考慮して各症例に最も適した治療薬を選択し、治療を

開始、継続してまいります。このような徹底した認知症診療の遂行のために、先生方には大変お手数をお掛けしますが、患者さまをご紹介頂く際には、まず地域医療連携センターにて予約をお取り頂きますよう、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



- 老年科もの忘れ外来新患日……火曜・水曜 ※完全予約制
- 予約方法…地域医療連携センターにてFAXで診療予約申込書をご送付ください。こちらから折り返し10分程度で診療予約票を返送致します。

●予約に関するお問い合わせは下記まで

東北大学病院 地域医療連携センター

TEL (022) 717-7131 / FAX (022) 717-7132

※月曜日～金曜日(祝祭日・年末年始除く) 8:30～17:15

INFORMATION / 専門看護師紹介

がん看護専門看護師の役割

がん看護専門看護師 伊奈 侑子

本年4月1日より東北大学病院がん看護専門看護師として任に着きました。どうぞよろしくお願いたします。いまや日本においてがんが死因の第一位になって久しくなりました。かつて結核が国民病であった時代は去り今や「がん」がそれにとって変わりました。さらにはがんの医療は日ごと発展をとげてきました。「がん」ですと告げられる患者さまやご家族が「死」の宣告を受けた時代から、がんは慢性疾患ととらえ、病気を抱えて社会復帰している方々がふえている時代になりました。初期の治療が終わり仕事に家事につきながら補助療法を外来通院で受けていらっしゃる人々も増えています。がんサバイバーといわれる方々です。そのように医療が大きく変わってきていますがその変化に伴って患者さまは医療・看護に満足していらっしゃるのでしょうか。がんの治療は身体的・心理・社会苦痛を伴い、その副作用に辛い体験を多くの方々がしています。本年4月にがん対策基本法が施行となりがん患者さまやご家族の方々が医療に参画できるようにもなりました。大きな一歩です。

さて、がん看護専門看護師が日本に誕生して12年になりました。がん看護専門看護師の役割は、がん患者さまとご家族の方々に寄り添い、辛い治療を乗り越え、その方にあったQOLをデザインし日々ゆったりと生活できるようお手伝い致します。一方、またどこでも患者さま・ご家族の方々が同じ良いケアが受けられるよう高度・専門的がん看護者育成も仕事です。現在日本には79名のがん看護専門看護師がいます。日本に必要な数にはまだ程遠い観があります。当院ではがん関連の認定看護師3名を中心にもにがん患者さま・ご家族の皆様へ添えるよう日々研鑽を積みたいたいと思います。いつでもお声をお掛けくださいますようお願いいたします。



講演するがん看護専門看護師

EVENT

平成19年度第1回退院支援事例に関するワークショップを開催

地域医療連携センター担当師長 仙石 美枝子

地域医療連携センター・後方支援委員会主催のワークショップが6月26日(火) 当院を会場として、担当訪問看護ステーション、担当部署の看護師、MSW、保健学科講師等の参加で開催されました。

今回は、「慢性腎不全の退院困難事例」について、当院から退院した患者さまの事例を挙げ話し合われました。

まず、訪問看護ステーション側から、患者の希望に添う看護という看護目標を立て看護過程を展開した在宅での看取りまでの経過のほか、グリーンケア時に妻から「夫は病院を出ることができて喜んで」「生活者のひとりとして夫に関わることができた」という言葉を聞くことができたとの報告がなされました。

病棟側からは、入院中ではわからない退院後の患者さまの生活が見え、この患者さまにとって転院ではなく在宅を選択しことが、とても良い選択であったのではとの感想が聞かれました。

また、2回の退院調整会議を行い方向性について時間をかけて話し合いを行ったことが、病棟側と訪問看護ステーション側双方にとって有効であったことが確認されました。

最後に、訪問看護ステーション側から、事例の情報や医療情報を十分に病院側から提供してほしい旨要望され閉会となりました。

本院の病棟看護師にとって、退院後を見据えた看護提供の良い勉強の機会ともなりますので、今後もこのような地域看護師との交流の会を定期的で開催していく予定です。

EVENT

日本フィルがやってきた!

去る平成19年4月22日に日本フィルハーモニーのメンバーによる「弦楽四重奏コンサート」が外来棟1階待合ホールにて開催されました。このコンサートは職員組合を通じてお話があり、平成19年5月に開催された「日本フィルハーモニー交響楽団仙台演奏会2007」のプレイベントとして行われました。当日は、有名な日本フィルハーモニーの演奏が間近で聞けるとあって、入院中の患者さまや付き添いのご家族、教職員と大勢の方々に集まりいただきました。皆様に耳慣れた曲も多数演奏され、最後は集まった皆様が合唱を行うなど、コンサートホールさながらの盛り上がりとなり、お集まりいただいた皆様並びに、演奏された日本フィルハーモニーの奏者の方々にとっても大満足の演奏会になったのではないのでしょうか。また、こういった機会があればいいですね。(医事課入院第二係)



INFORMATION / 高度先進医療の紹介

皮膚科: 悪性黒色腫に対するセンチネルリンパ節生検

助教 芳賀 貴裕

皮膚悪性腫瘍の手術では、その組織型や進行度により、原発巣の切除と再建に加えて、所属リンパ節の郭清が必要な場合があります。皮膚悪性腫瘍の一つとして悪性黒色腫がありますが、この腫瘍はその大きさではなく、組織学的な厚さや潰瘍形成の有無により進行度や予後が予測されるという特徴があります。進行すると主にリンパ行性に転移するため、以前は明らかな所属リンパ節の腫脹がなくても、原発巣の状態に応じて予防的リンパ節郭清を施行するのが一般的でした。リンパ節郭清を施行することでリンパ浮腫やしびれ、運動制限などの後遺症を残すことがあり、生活の質(QOL)が低下することもありましたが、癌細胞が最初に転移するリンパ節(センチネルリンパ節)に転移がなければ、所属リンパ節への転移はない可能性が高く、その場合、所属リンパ節郭清は省略できる可能性が認められてきています。センチネルリンパ節生検を施行することでリンパ節郭清を施行せずに済むのであれば、それらの後遺症を避けられると思われれます。つまり、進行していない可能性のある場合には負担の大きい手術を避け、術後の後遺症を最低限に抑えることができます。早期か進行期か判断が難しい場合には特に有用で、リンパ節腫脹が無い場合にも、センチネルリンパ節生検により微小な転移が確認できれば、その所属リンパ節郭清を施行することで、さらに進行するのを抑制できる可能性もあると考えられます。

実際に当科では、悪性黒色腫の患者さんに対して2000年11月からγ-プローブ法と色素法という二つの方法を用いる併用法により、センチネルリンパ節生検を施行しています。γ-プローブ法では、フチン酸という放射性同位元素を用いる事により、シンチグラフィ(図1)と検出器(図2)によりセンチネルリンパ節の位置をある程度確認します。色素法では、パテントブルーという院内製剤を原発巣周囲に局注し(図3)、センチネルリンパ節が青く染まり(図4)、肉眼的にセンチネルリンパ節を同定することが出来ます。各々の方法を単独で施行する場合より併用法の方が精度が高められ、この検査の有用性が確認されています。

当院では2007年になり、悪性黒色腫に対するセンチネルリンパ節生検が先進医療として認められました。かつては校費負担で施行していた検査ですが、この検査が有用であると思われる患者さんにはその有用性について説明し、同意が得られた場合に、自費でセンチネルリンパ節生検を施行しています。



図1: センチネルシンチグラフィ:原発巣(右足)周囲に放射性同位元素であるフチン酸を皮内注すると、数分ないし数十分でフチン酸が集積するリンパ節が描出される。



図2: γ-プローブ;体表からセンチネルリンパ節の位置を確認するために用いる。



図3: パテントブルー局注によりリンパ流がわかる(白矢印)。

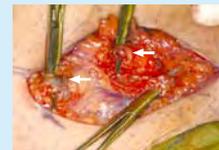


図4: 青染されたセンチネルリンパ節

INFORMATION

宮城県救急医療研究会 第9回学術集会のご案内

平成19年9月29日(土)午前9時から、仙台市急患センターに於いて宮城県救急医療研究会第9回学術集会を開催致します。お申し込みは必要ありませんので、奮ってご参加ください。

- 日 時: 平成19年9月29日(土)午前9時~午後5時
- 会 場: 仙台市急患センター(仙台市医師会館)
〒984-0806 仙台市若林区舟丁64-12 TEL 022-227-1531
- 参加費: 1,000円
- 開催内容: (1)一般演題 「救急医療全般について」
(2)教育講演
I. 「Emergency in School」
東北大学病院高度救命救急センター 佐々木 淳一

II. 「災害時における開業医の役割」

東北大学病院高度救命救急センター 山内 聡

(3)シンポジウム

「迫り来る宮城県沖地震に対するCERT宮城モデルの構築に向けて」
※CERT: Community Emergency Response Team

- 司 会 宮城県医師会常任理事 山形 成徳
東北大学病院高度救命救急センター 篠澤 洋太郎
- シンポジスト 小千谷市魚沼市川口町医師会副会長 中村 忠夫
静岡市健康づくり推進課副主幹 長田 正孝
仙台市医師会理事 登米 祐也
東北大学大学院工学研究科准教授 佐藤 健

＋ SERIES / 認定看護師紹介

認定看護師とは、「看護ケアの広がりや質の向上を図るために、日本看護協会が認めた特定の分野における熟練した看護技術と知識を有する看護師」をいいます。現在は17の認定分野があり、当院では、13分野16名の認定看護師が「実践」「指導」「相談」の役割を果たすべく活動を行っています。今回は、救急看護認定看護師の活動を紹介します。

第3回：救急看護認定看護師紹介

高度救命救急センター 設楽 恵子 安彦 武



設楽 恵子



安彦 武

平成18年10月、東北大学病院 高度救命救急センター(以下、救命センター)は全国で20番目の高度救命救急センターとして設立され、これに伴い新しい設備と医療スタッフの増員のもと運用が開始されました。開設後、外来は軽症初療室4床、経過観察ベッド3床、重症初療室2床になり、入院ベッドもICU4床、HCU16床と増床されました。病院の屋上にはヘリポートが設置され、広域搬送による専門的治療が可能となりました。

救急医療の対象は不慮の事故による外傷や熱傷、脳卒中や心筋梗塞などの突発的な発症や慢性疾患の急性増悪、各種中毒など、多種多様な疾病・外傷の患者さまざまです。我々救急看護認定看護師の役割は、高度先進医療を行う救急医療ニーズに応じて救命技術を実践するとともに、危機的状況にある患者さまとご家族への精神面の援助を行うことです。また、看護実践を通し、他の看護職者に対して救命技術などの指導・相談を行うことも役割の一つです。具体的な活動として、

救命センター内では、外来、ICU・HCUで看護ケアを提供するとともに、スタッフに対して病態アセスメント、看護計画・実践の指導を行っています。救命センター外では、他の病棟から依頼を受けた際に、救命技術や急変対応の指導を行うほか、アメリカ心臓協会公認の一次救命コース(BLS ヘルスケアプロバイダーコース)、標準病院前救護コース(JPTEC)でのインストラクションを行っています。さらに本年度からは、救命センターに所属する小児救急看護認定看護師(1名)、重症病棟部の重症集中ケア認定看護師(2名)とクリティカルケアチームを立ち上げ、各種研修を企画運営しています。

私たちが生きていく中で、緊急場面の発生はある意味避けられないものと言えるかもしれません。そのときに我々の個性を十分発揮できるよう日々の自己研鑽を惜みず、「救急看護認定看護師がいたからこそ救われた。」といわれるような存在でありたいと考えます。

FROM OFFICE / 地域医療連携センターからのおたより

平成19年度第1回地域医療連携センター講演会を開催します!

今回は、本院のクリニカルパス推進委員会と共同開催です。

済生会若草病院 外科部長の佐藤靖郎先生をお招きし、今、注目されている「地域医療連携パス」の作成、活用のポイントについてのお話を伺うことにしています。

必要不可欠なこのツールについてのノウハウと一緒に学びませんか?

申込みは不要ですので、お気軽にご参加ください。大勢の参加をお待ちしています♪

- 日 時：平成19年9月14日(金) 17:30~19:00
- 場 所：東北大学病院 臨床講義棟 大講堂
- 対象者：すべての医療機関の医師、看護師、その他医療従事者・事務職員等
- 講師紹介：済生会若草病院 佐藤 靖郎 外科部長

横浜医療センターにおける連携パス推進の立役者。連携パス作成により、自らの理念に基づく連携のあり方を展開している。今年4月、社団法人恩賜財団 済生会若草病院外科部長に着任。済生会若草病院でも、同院および周辺施設における連携パスの導入を進めている。

※講演会に関するお問い合わせは地域医療連携センターまで

国立大学医療連携・退院支援関連部門連絡協議会に参加してきました!

今年で5回目をむかえるこの連絡協議会は、全国の42国立大学病院の医師、看護師、MSW、事務など総勢180名が一同に介し、それぞれの大学病院の医療連携についての取り組み、実績を発表し、また一緒に医療連携について考え、学び場となっています。

今年は7月6日、7日の1泊2日の日程で、愛媛県の奥道後温泉を会場に行われました。職種ごとの分科会では活発な意見交換が行われ、10名という最多人数で参加した本院地域医療連携センターのメンバーは大きな刺激を受けて帰ってきました。

今後の医療連携に、この有意義な2日間で学んだことを有効活用していきたいと思えます。



当院からの参加メンバー 10人



会場の様子



分科会 MSWの部

新患日一覧

※受付時間は8:30~10:30までとなっております。(皮膚科は10時まで、眼科は11時30分までとなっておりますのでご注意ください)
 ※() 内の電話番号は各診療科外来です。

(H19.7現在)

| | | | | | |
|------------------------------|---------------------|---|-------------|--|----------------------|
| 循環器内科 (022-717-7728) | 月~金 | 移植・再建・内視鏡外科 (022-717-7742) | 食道外科:水・木 | 小児科 (022-717-7744) 小児腫瘍科 (022-717-7878) | 月~金 |
| 感染症・呼吸器内科 (022-717-7766) | 月~水 | | 血管外科:月・火 | 遺伝科 (022-717-7744) | 月~金 ※予約制 |
| 腎・高血圧・内分泌科 (022-717-7778) | 水・金 | 乳腺・内分泌外科 (022-717-7742) | 移植・肝臓外科:火・金 | 小児外科 (022-717-7758) | 月~金 |
| 血液・免疫科 (022-717-7730) | 水・金 | | 乳腺外科:月・水・木 | 皮膚科 (022-717-7759) | 月~金 受付時間(8:30~10:00) |
| 糖尿病代謝科 (022-717-7779) | 火・金 | 心臓血管外科 (022-717-7743) | 甲状腺外科:火・金 | 眼科 (022-717-7757) | 月~金 受付時間(8:30~11:30) |
| 消化器内科 (022-717-7731) | 火・金 | | 木・金 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科 (022-717-7755) | 月・水・金 |
| 老年科/漢方内科 (022-717-7736) | 老年科:水 ※もの忘れ外来は完全予約制 | 整形外科 (022-717-7747) | 月~金 | 肢体リハ (022-717-7751) | 月・水・木・金 |
| | 漢方内科:火・水 ※予約制 | 形成外科 (022-717-7748) | 月・水・金 | 運動リハ (022-717-7751) | 月・水・木・金 |
| 心療内科 (022-717-7734) | 月・水・金 | 麻酔科 (022-717-7760) | 水・金 | 内部リハ (022-717-7751) | 月・水・木・金 |
| 遺伝子・呼吸器内科 (022-717-7875) | 月・水・木・金 | 緩和医療科 (022-717-7768) | 月・火・木 ※予約制 | 高次リハ (022-717-7751) | 月・水・木・金 |
| 腫瘍内科 (022-717-7879) | 月・火・木 | 呼吸器外科 (022-717-7877) | 月・水・金 | 放射線治療科 (022-717-7732) | 月~金 |
| 肝・胆・膵外科 (022-717-7740) | 一般新患:月・水・金 | 婦人科 (022-717-7745) 産科 (022-717-7745) | 月~金 | 放射線診断科 (022-717-7732) | 月~金 |
| | 膵臓疾患:月 | 泌尿器科 (022-717-7756) | 月・火・水・金 | 加齢核医学科 (022-717-7880) | 月~金 ※出来れば火・水・木 |
| | 肝胆道疾患:金 | 神経内科 (022-717-7735) | 火・金 | 総合診療部 (022-717-7509) | 月~金 |
| 胃腸外科 (022-717-7740) | 一般新患:月・水・金 | 脳神経外科 (022-717-7752) | 月・木・金 | | |
| | 胃腸悪性疾患:水 | 脳血管内治療科 (022-717-7752) | 火・金 | | |
| | 炎症性腸疾患:木 | 精神科 (022-717-7737) | 月・水・金 | | |

INFORMATION

看護衣リニューアル!



平成19年5月から看護衣が新しくなりました。ピンクの縁取りがオシャレな看護衣です。

昨年の4月にナースキャップをはずしてからは看護衣が数種類あり、看護師かどうかの区別がつきにくかったのですが、今回統一し、一目で分かるようになりました。また、左肩に東北大学のロゴマークの萩をあしらいました。

お問い合わせ先一覧

代表 022-717-7000 (8:30~17:15)
 事務当直 022-717-7024 (上記時間帯以外)

※受付時間は8時30分から17時15分までとなっております。

| お問い合わせ先 | 番号 | 備考 |
|--------------|---|---|
| 地域医療連携センター | 診療案内等 TEL022-717-7618 予約等 TEL022-717-7131 | 診療日・受付時間等の確認、紹介患者さまのご予約等につきましては、お気軽に地域医療連携センターまでお問い合わせください。 |
| セカンドオピニオン外来 | 地域医療連携センター TEL022-717-7131 FAX022-717-7132 | 予約制となっております。事前にお電話にてご連絡をお願い致します。 |
| 遺伝カウンセリング | 小児科外来 TEL022-717-7744 | |
| 緩和ケアセンター入棟相談 | 緩和医療科外来 TEL022-717-7768 | 予約制となっております。受診日につきましては事前にお電話にてご確認くださいようお願い致します。 |
| W O Cセンター | TEL022-717-7652 | |
| 高度救命救急センター | TEL022-717-7499 | |
| 治験センター | TEL022-717-7772 | |
| 臓器移植医療部 | TEL022-717-7702 | 移植外科の新患日は火・金となっております。(火・金以外でも対応可能な場合がございますので、別の曜日で受診ご希望の場合には、臓器移植医療部までご連絡をお願い致します。) |
| 核医学・PET検査受付 | TEL022-717-7680 | |



編集後記

この「With」が創刊され丸1年が経ちました。

初めての院外向け広報誌、右も左もわからず、創刊号の病院長挨拶には名前がない! という大失態を犯しましたが、なんとか1年4回発行することができました。一巡した今回、少しは成長の跡が見られるでしょうか。

今回は、昨年10月にオープンした「高度救命救急センター」のその後の特集を予定しています。ご期待ください。

今後も地域医療機関にとって、より身近な地域医療連携センターになるよう心がけたいと思っていますので、尚一層のご支援をよろしくお願い致します。



● 編集・発行 東北大学病院地域医療連携センター TEL: 022-717-7131 FAX: 022-717-7132
 E-mail: ijk002-thk@umin.ac.jp

ご意見、ご要望がございましたら、地域医療連携センターまでお願いいたします。